東大泌尿器科 6 年間の疾患統計

東京大学医学部泌尿器科教室
(主任: 高安久雄教授)

高 安 久 雄*
小 川 秋 実**
岩 動 孝 一 郎
河 辺 香 月
仁 藤 博
梅 田 隆
宮 村 隆 三
小 磯 謙 吉
松 本 泰

STATISTICAL ANALYSIS OF THE UROLOGICAL DISEASES DURING RECENT
SIX YEARS AT THE DEPARTMENT OF UROLOGY IN THE
UNIVERSITY OF TOKYO

Hisao Takayasu, Akimi Ogawa, Koichiro Isurugi, Kazuki Kawabe, Hiroshi Nito,
Takashi Umeda, Ryuzo Miyamura, Kenkichi Koiso and Yutaka Matsumoto
From the Department of Urology, Faculty of Medicine, The University of Tokyo
(Director: Prof. H. Takayasu)

The urological diseases in patients who were consulted and/or treated at the Department of Urology in the University of Tokyo during the period from 1963 to 1968 were statistically analysed.

The total number of the urological diseases definitely diagnosed was 11,937, consisting of congenital anomalies (13%), tuberculosis (4%), venereal diseases (3%), non-specific infections and inflammations (22%), urogenital tumors (14%), stones (11%), foreign bodies (0.5%), trauma (0.8%), sterility (5%), adrenal diseases (0.5%), and others (26%).

Sex and age distributions and etiologic factors of the diseases were also determined.

緒 言

近年の泌尿器科学の進歩により、新しい疾患の増加や対象疾患の拡大がみられるが、最近の泌尿器科対象疾患の種類、頻度、性別、年齢分布等を出来るだけ詳細に知るために、東大泌尿器科の過去6年間の受診患者の疾患分類、集計を行なつたので、その結果を報告する。

方 法

1963年(昭和38年)1月1日より1968年(昭和43年)12月31日までの6年間に東京大学医学部附属病院泌尿器科を受診した症例(救急患者、入院患者も含む)を対象とし、次の方法により分類集計を行なつた。

I) 初診時期による分類

- 1) 追跡患者: 初診日が1962年12月31日以前の症例。
- 2) 新来患者: 対象期間中に初診せる症例。但し、追跡患者でも全く別箇の疾患で対象期間中に受診したものは新来患者とした。

II) 新来患者はその疾患により以下の分類をした。

- 1) 正常(健康診断、性病危惧、精管結紮・包茎手術希望、等)
- 2) 境界領域または他科疾患(各科にまたがる疾患では、診療上最も主体性を持つ科が当科の場合には泌尿器科疾患とし、他科に最も主体性のある場合は境界領域疾患とした)。

*教授 **講師

3) 治癒型泌尿器科疾患：疾患は治癒しているが精査のため受診した症例で、初診時にはすでに治療の対象とならないもの（尿路結石自然排出後、急性膀胱炎で薬剤服用し治癒した後、腎結核で他医にて完全治療を受けた後、等）

4) 泌尿器科疾患

泌尿器科疾患は、臨床診断の確定、未確定により次の分類を行なった。

1) 未診（診断未定）

2) 疑診

3) 確診

臨床診断は結果の各項で述べるごとく、診断上問題のある疾患については診断基準を定め、これに該当しない場合は疑診あるいは未診とした。但し、追跡患者では確診と疑診を一括した。

Ⅲ) 疾患分類は系統的方法によつたが、必しも系統的に分類出来ない疾患はその他の項へ纏めた。

2 コ以上の疾患を有する症例では、その夫々の疾患につき分類集計を行なった。但し、ある疾患で通常みられる二次的疾患（例えば尿管結石による水腎症）は、原則として原疾患のみ集計し、二次的疾患は集計より除外した。

診療録の紛失した症例が若干あるが、これは集計より除外した。

（当科では毎年診療録を更新するため、この集計に際しては、各症例につき年度に関係なく1枚のカードを作製、同一症例の同一疾患を2回計算しないようにした）。

Ⅳ) 新来患者の当科受診に際しての紹介の有無については、本院他科を受診したのち当科へ紹介された症例、およびその他医師に紹介された症例についてその頻度を求めた。

V) 性別、年令分布（初診時）、原因疾患等の集計は、すべて新患確診例についてのみ行なった。

結 果

Ⅰ) 総括的事項（表1）

新来患者の年平均は3,513名であつた。紹介の有無については

1) 本院他科による紹介 22.6%

2) その他医師による紹介 10.8%

従つて新来患者の33.4%が紹介されて泌尿器科を受診した。

新来患者の69.3%（年平均2,433名）は泌尿器科疾患を有するが、残る30.7%は全く疾患を有しないか、境界

領域疾患、他科疾患、あるいは泌尿器科疾患を有していたが初診時治癒しており、治療の対象とならないもの（治癒型泌尿器科疾患）であつた。

泌尿器科疾患を有する症例の6.8%が2 コ以上の泌尿器科疾患を有した。

新来患者のうち泌尿器科疾患が診断確定されたもの（確診）は、11,937件（年平均1,990件）で、その男女比は2.2:1であつた。

系統別および主要疾患の年平均新患数および確診件数に対する比率を表2に示す。

Ⅱ) 先天性奇形（表3）

憩室、嚢腫、陰嚢水腫、尿道狭窄、尿道直腸瘻、等には先天性のものもあるが、これら疾患では原因の如何によらず疾患毎に一括して別項へ分類した。

嚢胞腎、海綿腎の年令分布すなわち臨床症状の発現時期を表4に示す。

重複腎盂尿管が他の泌尿器科疾患を合併する比率は55%であつた。

尿道下裂と停留睪丸の合併は19例に認められた。

Ⅲ) 特異的感染症（表5）

1) 結核

膀胱結核（結核性萎縮膀胱を含む）は、腎結核の部分現象とみなし、その項目を設けなかつた。

結核患者は426名（疾患数：503件）で、腎結核はその68%を占めた。

両腎結核は95名で腎結核症例の27%を占め、腎結核と性器結核（男のみ）の合併は66名（副睪丸結核60名、前立腺結核10名、陰茎結核1名）で、男子腎結核の31%に認められた。

結核性萎縮膀胱（容量100 ml以下）は17例で、腎結核の5%に認められた。

結核患者の年令分布を表6に示す。

結核患者の年次推移をみると、尿路性器結核の新患数には漸減傾向がみられる（表7）。

2) 性病

潜伏梅毒（血清梅毒反応陽性）が他の泌尿器科疾患を合併する比率は35%であつた。

Ⅳ) 非特異的感染症および炎症（表8）

1) 腎盂腎炎

発熱、腎部圧痛、膿尿および細菌尿の急性症状を呈するか、あるいは急性症状を寛解期を挿んで反復する場合のみを腎盂腎炎と称し、そのうち原因として結石、異物、腫瘍等の尿路閉塞性疾患、あるいは膀胱尿管逆流等

表 1

受診患者総数	21,796名
└─ 追跡患者	719名
└─ 新来患者	21,077名
└─ 正 常	4,162名
└─ 境界領域あるいは 他科疾患のみ	1,817名
└─ 治癒型泌尿器科疾患のみ	501名
└─ 泌尿器科疾患を有するもの	14,597名
↓	
(疾患数)	15,568件
└─ 確診	11,937件
└─ 疑診	748件
└─ 未診	2,883件
└─ 男	8,213件
└─ 女	3,722件
└─ 真性半陰陽	2件

表 2 系統別および主要疾患の頻度

系統および疾患名	年 平 均 新 患 数	比 率* (%)
先天性奇形**	253	13
結 核	84	4
性 病	58	3
非特異的感染症及び炎症	429	22
腫 瘍	282	14
結 石	223	11
異 物	10	0.5
外 傷	16	0.8
不妊症	101	5
副腎疾患	11	0.5
その他	523	26
計	1990	100
急性膀胱炎	227	11
前立腺肥大症	115	6
悪性腫瘍(膀胱腫瘍含む)	75	4
膀胱腫瘍	54	3

* 新患確診件数に対する比率

** 後記の奇形の項以外の先天性疾患を含む

表 3 先天性奇形

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎欠損	5	3	2		2
形成不全腎	25	9	16		
転位腎	5	2	3		
融合転位腎	2	1	1		
馬蹄鉄腎	22	13	9		
回転異常腎	12	4	8		
嚢胞腎	40	17	23	5	3
海綿腎	11	8	3		
重複腎盂尿管	102	38	64		4
先天性尿管狭窄*	89	55	34	2	5
尿管異所開口	9		9		1
尿管瘤	12	4	8		2
大静脈後尿管	1	1			1
尿管異常屈曲	1	1			
巨大膀胱症候群	5	2	3		
先天性膀胱頸部狭窄	1		1		
膀胱外反症	1	1			
尿道上裂	5	5			
尿道下裂	179	179			3
重複尿道	1	1			
尿道欠損					1
単睾丸症	4	4			
停留睾丸	333	333			10
精管欠損					1
陰茎屈曲回転	11	11			
真性包茎**	280	280			1
類宦官症	106	106		8	13
クラインフェルター 症候群	11	11		1	2
男性仮性半陰陽	18	18		2	9
女性仮性半陰陽	18		18		5
真性半陰陽	2				
辜丸性女性化症候群	1	1			
計	1,312	1,108	202	18	63

* 異常血管による尿管狭窄を含む

** 嵌頓包莖 9 例を含む

表 4 嚢胞腎および海綿腎の年齢分布

年齢	<10	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	平均 年齢
嚢胞腎										
男		1	1	3	8	3	1			
女			2	5	11	2	3			44
海綿腎										
男			1	2	5					
女					1	2				43

表 5 特異的感染症

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎結核	340	200	140	39	183
副睪丸結核	135	135		12	45
前立腺結核	14	14			3
陰莖結核	13	13			3
膀胱前結核膿瘍	1		1		
計	503	362	141	51	234
潜伏梅毒	287	185	102	8	10
顕症梅毒	2	2			
淋 疾	54	51	3		
軟性下疳	2	1	1		
計	345	239	106	8	10

表 6 結核の年令分布

年令	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均 年令
腎結核										
男		23	62	51	36	14	11	3		36
女		9	35	31	43	15	5	2		
副睪丸結核										
男		3	41	44	23	12	9	2	1	38
陰莖結核										
男			2	4	4	2		1		43

表 7 結核新患数の年次推移

昭和 年次	38	39	40	41	42	43
結核全体(名)	89	88	76	69	55	49
腎結核(名)	71	60	61	60	45	43

表 8 非特異的感染症および炎症

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎盂腎炎	93	25	68	52	3
膿腎症*	8	3	5		
腎膿瘍					1
腎周囲膿瘍	3	3		1	
濾胞性尿管炎				1	
急性膀胱炎	1,360	256	1,104	30	7
抗精子抗体膀胱炎	5		5	1	
放射線性膀胱炎	22	1	21	1	4
化学性膀胱炎	1	1			
濾胞性膀胱炎	41	1	40		1
膀胱三角部白斑	30	1	29		
膀胱周囲炎	6	3	3		1
尿道炎	349	333	16	19	19
尿道周囲炎	5	2	3		
前立腺炎	162	162		15	11
睪丸炎**	4	4		2	
副睪丸炎	267	267		13	7
亀頭包皮灸	195	195			3
閉塞性乾皮性亀頭炎	3	3		1	
陰茎静脈炎	1	1			
陰茎・陰囊膿瘍	7	7			
陰茎・陰囊肉芽腫	5	5			
計	2,567	1,273	1,294	136	57

* 結石性膿腎症は 2 例

** 耳下腺炎に併発せるものは 1 例

表 9 非特異的感染症の年令分布

年令	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均 年令
急性膀胱炎										
男	36	30	51	42	30	36	21	9	1	34
女	30	22	368	277	158	155	77	17		31
尿道炎										
男		12	167	95	34	13	8	2		32
女			5	5	4	1				
前立腺炎										
男		4	57	42	21	24	10	4		38
副睪丸炎										
男	3	14	61	65	38	32	40	13		41

表10 腫瘍

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎腫瘍	47	39	8	23	8
腎盂腫瘍	9	8	1	1	
尿管腫瘍	14	12	2		
尿路乳頭腫症	3	3			1
膀胱腫瘍	321	237	84	13	39
尿道腫瘍	18	7	11	1	
前立腺癌	86	86		22	14
前立腺肥大症	691	691		22	26
睪丸腫瘍	62	62		16	10
副睪丸腫瘍	4	4		1	
精索腫瘍	1	1		1	
陰茎腫瘍	21	21		4	3
陰囊腫瘍	1	1		1	
尖圭コンデローム	20	20		2	
尿道カルンクラ	320		320		3
膀胱頸部ポリープ	64	5	59	1	
陰茎基部神経線維腫	1	1			
陰門汗腺腫瘍	1		1		
後腹膜腫瘍	9	8	1	5	
計	1,693	1,206	487	113	104

表11 腫瘍の組織分類

	悪性								良性	不明
	計	移	扁	腺	浸	転	肉	他		
腎実質	39			33		1		5*	1	7
腎盂	8	8								4
尿管	14	11	3							
膀胱	220	172	8	9	28	1	1	1**	5	96
尿道	8		6	2					5	3
前立腺	86			86						
陰茎	16		16						2	3
陰囊	1							1+		
陰門	1			1						
後腹膜	5			1			1	3*		4
陰茎基部									1	
副睪丸	2					1	1		2	
小計		191	33	132	28					
		セ	胎	奇	混					
睪丸	47	24	12	7	3	1			7	7
計	447					4	3	10	23	124

表11の注

* ウイルムス腫瘍, **末分化癌,
+ 黒色芽細胞腫, * 神経芽細胞腫
(移:移行上皮癌, 扁:扁平上皮癌, 腺:腺癌,
浸:浸潤癌, 転:転移癌, 肉:肉腫, セ:セミ
ノーマ, 胎:胎生癌, 奇:奇形癌, 混:混合型)
腎実質性腫瘍には腺癌, ウイルムス腫瘍以外に甲
状腺癌の転移および Bourneville-Pringle 氏病に
併発した血管筋脂肪腫の各1例。
腎盂腫瘍には尿路乳頭腫症を含む。
膀胱移行上皮癌には膀胱乳頭腫を含む。
膀胱腺癌には尿管腫瘍の3例を含む。膀胱浸潤
癌は直腸癌, 子宮癌の浸潤。膀胱転移癌は腎腺癌の
転移1例。膀胱良性腫瘍はRecklinghausen 氏病の
神経線維腫, 過誤腫, 平滑筋腫, 血管腫, エンドメ
トリオーシスの各1例。
尿道良性腫瘍は血管腫2例, 良性乳頭腫3例。
陰茎良性腫瘍は血管腫2例。陰茎基部の神経線維
腫1例。
副睪丸の転移癌は細網肉腫の転移。副睪丸良性腫
瘍は血管腫と平滑筋腫の各1例。
睪丸腫瘍のうち胎生癌の1例は両側睪丸に同時発
生, 混合型の1例は, 1側睪丸腫瘍剔除後10年で他
側に腫瘍発生。転移性睪丸腫瘍の1例は細網肉腫の
転移。睪丸良性腫瘍はいずれも40才未満で, 類表皮
嚢胞2例, 類皮嚢胞2例, 奇形腫1例, セルトリー
細胞腫1例, 脂肪平滑筋腫1例。

表12 腫瘍の年令分布(その1)

年令	<10	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	年令平均
腎腺癌										
男		1	2	1	6	4	10	5		53
女			3					1		
ウイルス腫瘍										
男	3	1								
女	1									
腎盂腫瘍（尿路乳頭腫症を含む）										
男					3	2	3	3		62
女								1		
尿管癌（*腺癌 1 例，**腺癌 2 例を含む）										
男				1		2	5*	3**	1	66
女							1	1		

年令	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均 年令
膀胱移行上皮癌										
男			5	3	17	44	46	24		58
女			4	4	3	6	12	4		
膀胱扁平上皮癌										
男					1	1	1	3		63
女					1		1			
膀胱腺癌（*尿管癌各1例含む）										
男						3	1			48
女			1*	1	2*	1*				
膀胱浸潤癌										
男			1	3				1		52
女				3	5	7	6	2		
尿道癌（*腺癌各1例含む）										
男				1			1			51
女			1		1	2*	2*			
前立腺癌										
男					2	10	37	32	5	63
陰茎癌										
男				2	4	4	2	3	1	57
セミノーマ										
男			8	9	4	2	1			36
睾丸胎生癌										
男	2	1	6	3						23
睾丸奇形癌										
男	2		2	3						
混合型睾丸癌										
男	1		1	1						

表13 腫瘍の年令分布（その2）

年令	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均 年令
前立腺肥大症										
男					12	126	330	177	46	67
尖圭コンジローム										
男		2	13	3	2					28
尿道カルンクラ										
女	1		18	33	52	95	93	23	5	54

表14 結 石

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎盂結石	418	281	137	19	28
サンゴ状結石	58	31	27	4	
尿管結石	724	543	181	115	32
膀胱結石	79	61	18		5
尿道結石	20	20		2	1
前立腺結石	39	39		1	3
精囊腺結石	2	2			
計	1,340	977	363	141	69

表15 上部尿路結石の年令分布

年令	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均 年令
上部尿路結石										
男	5	38	287 (9)	251 (11)	108 (5)	95 (3)	43 (1)	9		36
女	1	19	121 (2)	92 (7)	43 (5)	28 (10)	18 (2)	6 (1)		35

カッコ内はサンゴ状結石件数

表16 上部尿路結石の原因疾患

チスチン尿症	4	神経因性膀胱	2
副甲状腺機能亢進症	4	尿管狭窄	12
高尿酸血症	13	尿管瘤	1
クッシング症候群	2	囊胞腎	4
腎杯憩室	8	海綿腎**	1
腎結核*	5	計	56

* 石灰化は除く
** 腎杯先端の小結石のみの海綿腎は含まず

の認められるものは本項より除外した。

2) 急性膀胱炎

排尿痛、頻尿、膿尿の三主徴をすべて有するか、あるいは血尿と膀胱粘膜下出血を認める場合（出血性膀胱炎）のみ急性膀胱炎とし、このうち膀胱結石、腫瘍、異物、神経因性膀胱等の原因が明らかであるものは本項より除外した。膀胱刺激症状はあるが膿尿のない場合は、その原因により膀胱炎亜型の項か、あるいは未診として頻尿の項へ分類した。

3) 膀胱炎亜型

i) 抗精子抗体による急性膀胱炎：性交を契機として発生し、血清中に抗精子抗体を証明したもの。

ii) 放射線性膀胱炎：骨盤内腫瘍の放射線治療中あるいは治療後に発生し、治療に抵抗したもの。

iii) 化学性膀胱炎：患者自身が石灰酸を膀胱内注入したため発生した急性膀胱炎（1例）。

iv) 濾胞性膀胱炎：膀胱刺激症状があり、膀胱粘膜に濾胞を認めるが、その原因の明らかでないもの。

v) 膀胱三角部白斑：膀胱刺激症状があり、かつ膀胱頸部より三角部にかけて白斑を認めたもの。

4) 尿道炎（非淋菌性）

他覚的に尿道よりの排膿が証明されたもののみ尿道炎とした。

5) 前立腺炎（非特異性）

前立腺液に400倍視野中5コ以上の白血球がある場合を前立腺炎とした。

6) 副睾丸炎

本項には精子肉芽腫も含ませた。

V) 腫瘍（表10）

前立腺肥大症は直腸診にて腫大した前立腺腫を触知するか、膀胱尿道撮影により前立腺の腫大を証明したもののみとした。

前立腺癌は組織学的診断のついたもののみ確診とした。

膀胱頸部ポリープは、内視鏡的に有基性のポリープ状を呈した腫瘍を含ませた。

後腹膜腔腫瘍のうち副腎腫瘍は別項で纏めた。

尿路性器腫瘍の組織所見による分類を表11に示す（但し前立腺肥大症、尖圭コンジローム、尿道カルンクラ、膀胱頸部ポリープを除く）。なお組織所見の明らかな症例は、必しも当科で入院手術した例のみではないことを附記する。

悪性腫瘍の発生部位では膀胱が最も多く（49%）、次い

で前立腺（19%）、腎実質（9%）であつた。

腫瘍の年令分布を表12、13に示す。

VI) 結石（表14）

上部尿路結石（1,164名、1,200件）のうち36名では腎盂と尿管に結石が併存した。両側上部尿路に結石発生をみたものは57名（男41名、女16名）で上部尿路結石の4.9%であつた。

上部尿路結石の年令分布を表15に示す。

上部尿路結石発生の原因と思われる疾患は4.8%に認められたが（表16）、原因疾患の存在する場合に両側上部尿路に結石を発生する例が多いという傾向は認められなかった。

VII) 異物（表17）

VIII) 外傷（表18）

IX) 尿路通障害（表19）

水腎症の項では結石、尿路腫瘍、先天性奇形等による水腎症は除外した。

前立腺症には、膀胱頸部、前立腺部の後天性異常による排尿障害を起こす疾患のうち他の項目へ分類されないものをすべて含ませた。

神経因性膀胱の原因疾患は63%で明らかであつた。原因疾患の内訳ならびに原因が偶発的かは不明の合併神経疾患について表20に示す。

膀胱尿管逆流の原因を表21に示す。

X) 血管性疾患（表22）

腎血管性高血圧および睾丸捻転の年令分布を表23に示す。

XI) 急性腎不全（表22）

原因を表24に示す。

XII) その他の尿路疾患（表25）

特発性腎出血は3ヵ月以上経過観察し、全く原因と思われる疾患の存在しない場合のみとした。

特発性腎出血およびパイロ＝氏病の年令分布を表23に示す。

XIII) 副腎およびその他内分泌疾患（表26）

副腎疾患の年令分布を表27に示す。

XIV) 不妊症（表28）

乏精子症は精液1ml中に精子50,000,000コ以下とした。

XV) 精神身体医学的疾患（表28）

神経性頻尿は診断上問題のある症例が多いため、すべて未診とした。

XVI) 未診群（表29）

表17 異 物

疾 患 名	患 新				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
膀胱異物*	12	6	6	1	1
尿道異物	1	1			
陰茎異物**	43	43		2	2
陰囊異物**	4	4			1
計	60	54	6	3	4

* 手術用絹糸の残存を含む

** 殆んどが陰茎増大の目的で注入したオルガノーゲン

表18 外 傷

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎破裂	29	25	4		
尿管損傷*	1	1			
膀胱破裂	3		3		
尿道破裂	12	12			
陰茎破裂	15	15		1	
睪丸破裂	17	17			
陰囊外傷	12	12			
精索外傷	1	1			
會陰部外傷	3	2	1		
大靜脈損傷*	1		1		
計	94	85	9	1	0

* 他科医による手術時損傷

表19 尿流通障害

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
水腎症					
尿管周囲線維化	3		3		
子宮癌，陰癌	54		54		3
その他尿路外腫瘍	9	6	3	2	
腎盂尿管手術後	17	8	9		4
原因不明	89	54	35	14	12
前立腺症	316	316			
尿道狭窄	216	189	27	9	18
神経因性膀胱	262	156	106	58	6
起立性尿失禁	79	24	55	19	
外括約筋不全*	1	1			
膀胱尿管逆流	64	17	47		
計	1,110	771	339	102	43

* 鎖肛手術後遺症

表20 神経因性膀胱の原因疾患

脊椎拔裂	38	脊髓動静脈瘻	1
直腸癌術後	10	糖尿病	2
子宮癌術後	29	脳卒中	14
脊髓腫瘍	18	脳軟化	1
脊髓損傷	18	脳腫瘍	1
椎弓切除術後	4	蜘蛛膜下出血	1
椎間板ヘルニア	3	計	166
脊椎結核	1	脊髓空洞症	1
脊髓炎	2	ランドリ麻痺	1
髄膜炎	1	パーキンソン症候群	3
結核性髄膜炎	2	脊髓小脳変性	5
癒着性蜘蛛膜炎	5	オリープ・橋・小脳萎縮	1
SMON	2	一酸化炭素中毒	1
脊髓卒中	1	小脳性失調	1
前脊髓動脈症候群	2	仮性球麻痺	1
脊髓梅毒	2	痙性脊髓麻痺	2
脊髓癆	4	神経性筋萎縮症	1
多発性硬化症	4		

表21 膀胱尿管逆流の原因

神経因性膀胱	11	膀胱結石	1
尿路結核	8	膀胱腔瘻	1
膀胱腫瘍	2	尿管膀胱新吻合術後	4
膀胱頸部硬化症	1	不 明	36

表22 血管性疾患および急性腎不全

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎血管性高血圧	25	13	12	2	
腎梗塞	1	1			
腎動脈瘤	1	1			
辜丸捻転	15	15			
特発性辜丸壊死	1	1			
陰茎持続勃起症	1	1			
計	44		12	2	0
急性腎不全	24	8	16	0	0

表23 血管性疾患およびその他尿路疾患の年齢分布

年齢	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均年齢
腎血管性高血圧										
男		1	4	4	2	1	1			31
女		1	9	2						
睾丸捻転										
男	1	6	6	2						21
腎嚢胞										
男			1		1	1	2			48
女			1	4	2	2	1	1		
特発性腎出血										
男		25	69	46	27	23	10	3		35
女	1	7	33	37	18	10	5	1		
パイロニ氏病										
男			4	7	5	5	15	1		51

表24 急性腎不全の原因

腎実質性	閉塞性
薬物中毒	2
急性腎炎	1
亜急性腎炎	1
腎破裂	1
不明	3
計	8
	悪性腫瘍
	13
	尿路結核
	2
	尿管カテ後
	1
	計
	16

表25 その他の尿路疾患

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
腎嚢胞	16	5	11	2	1
副睾丸嚢胞	3	3		1	
精索嚢胞	1	1			
陰嚢嚢胞	1	1			
外尿道口嚢胞	10	10		1	
タイソン腺嚢胞	1	1			
腎周囲血腫	1	1			
陰嚢水瘤	210	210		2	1
精液瘤	82	82		6	1
精系静脈瘤	83	83			1
腎杯憩室	22	15	7	4	
尿管憩室	1		1		
膀胱憩室	35	18	17	1	
尿道憩室	9	6	3	1	
尿管腔瘻	16		16		3
膀胱腔瘻	25		25	1	4
膀胱腸瘻	5	3	2		2
尿道腔瘻	6		6		
尿道直腸瘻	7	7			2
尿道皮膚瘻	9	9			
腸腔瘻	4		4		
術後尿瘻	9	2	7		1
術後皮膚瘻	16	11	5		3
遊走腎	378	127	251	4	7
膀胱瘤	6		6		
尿道脱	5		5		
パイロニ氏病	37	37		2	1
特発性腎出血	315	203	112	22	18
起立性蛋白尿	7	6	1		
乳糜尿症	22	17	5	4	3
萎縮腎	2	1	1	1	
萎縮膀胱（原因不明）	2	1	1	1	
膀胱潰瘍	2		2		
陰茎潰瘍	6	6			
睾丸萎縮	16	16		7	
計	1,370	882	488	60	48

表26 副腎およびその他の内分泌疾患

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
褐色細胞腫	6	5	1	1	
クッシング症候群*	22	3	19	5	2
アルドステロン症**	20	7	13	2	
副腎性器症候群	15	1	14	2	4
パーター 症候群	1	1			
副腎神経節細胞腫	1	1			
小 計	65	18	47	10	6
副甲状腺機能亢進症**	4	2	2	1	
宦官症（除辜術後）	3	3			1
特発性女性化乳房	8	8			
計	80	31	49	11	7

* クッシング病2例を含む
** 原発性

表27 副腎疾患の年齢分布

年齢	<10	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均年齢
褐色細胞腫										
男		1	1	3						30
女				1						
クッシング症候群（*クッシング病各1例含む）										
男	1		1	1						29
女	1	2	3	7*	4*	2				
原発性アルドステロン症										
男			1	4	1	1				39
女	1			6	4	2				
副腎性器症候群										
男	1									13
女	5	6	2	1						

表28 不妊症および精神身体医学的疾患

疾 患 名	新 患				追跡
	確 診			疑診	
	計	男	女		
乏精子症	404	404		75	32
無精子症	200	200		1	32
死精子症	1	1			
抗精子抗体不妊	3		3		
計	608	605	3	76	64
夜尿症	456	249	207		13
陰 萎	312	312			3
早 漏	19	19			
計	787	580	207	0	16

表29 未 診 群

症 状	新患	追跡	症 状	新患	追跡
血 尿	485	1	尿 閉		2
尿道出血	9		乏 尿		3
血精液	133	2	浮 腫		14
蛋白尿	250	3	発 熱		10
膿 尿	12		慢性腎不全		6
糖 尿	6		逆行性射精		2
腹痛・腰痛	489		腎盂像異常		6
尿道痛	25		肥 満		33
睾丸痛	184		侏 儒		12
会陰痛	2		性器發育不全		26
腹部腫瘤	42		陰核肥大		1
尿道腫瘤	5		男性化症		1
頻 尿	878	3	多毛症		2
排尿困難	195				
失 禁	49		計	2,883	9

表30 境界領域疾患

疾 患 名	新 患		追 跡
	確 診	疑 診	
外陰皮膚疾患	182		
膣・陰門疾患	121		
子宮・卵巣疾患*	623		
慢性腎炎	90	17	2
ネフローゼ症候群	11	2	
急性腎炎	2		
尿細管性アテドーシス	1		
心因性多尿	1		
鞏皮症腎障害		1	
本態性高血圧症	219	51	3
高尿酸血症**	18		3
糖尿病	111	26	2
ヘモグロビン尿症	3		
下垂体性尿崩症	3		
性早熟症	1		
成熟遅延	5		
下垂体性侏儒	5		
その他下垂体疾患	6	1	
アジソン氏病	2	2	
ターナー症候群	3	2	1
ローレンス・ムーンプー ードル症候群	1	1	
ウエルナー症候群	2		
ウルリツチ症候群	1		
計	1,411	103	11

* 尿路疾患の合併のないもののみ
** 痛風を含む

XVII) 境界領域疾患 (表30)
XVIII) 他科疾患および正常群

他科疾患のみで泌尿器科的に正常な症例は 499名であつた。

正常者は 4,162名で、うち梅毒検査希望 365名、精管結紮希望82名、包茎手術希望 454名（真性包茎を除く）であつた。

考 按

外来あるいは入院患者についての疾患統計は、疾患の種類、頻度、性別、年令分布等を知る目的でなされるものであるが、従来より行なわれている疾患統計には、集

計の対象に以前からの追跡症例、疑診症例、あるいは治療後症例等を含めているものがあり、ある疾患が一定期間に何名の新患があるか不明の統計も少くない。例えば一年間の結核患者数には、新患以外に治療中の症例が多数含まれ、さらに治療終了後の定期的検査の症例あるいは疑診段階の症例も含まれていることもある。

今回行なつた統計では、従来行われた方法では必しも明確でなかつた点を明らかにするために、対象期間中の全症例を新来患者と追跡患者（対象期間以前に初診した症例）に分け、新患は泌尿器科疾患を有するものとそれ以外に分け、さらに前者を確診例、疑診例、未診例に分けた上で疾患分類を行なつた。疾患の頻度はすべて新患の確診症例数で示し、性別、年令分布、原因疾患等もすべて新患の確診例についてのみ行なつた。

疾患の分類方法は従来臓器別が多く用いられて来たが、ここでは泌尿器科疾患の全体の傾向を知るために系統的方法によつた。しかし系統化の不可能な疾患もあり、分類としては不明確な部分が出来たのは止むを得ないことである。

臨床診断は全例をすべて再検討し、診断上問題のある疾患については診断基準を設け、該当しない場合は確診とはしなかつた。これにより統計の信頼度を少しでも高めようとしたためである。しかしこれが疑診、未診例を多くした一因になつている。

診断基準、分類方法、泌尿器科疾患の範囲等に異論がありうると思われるが、この疾患統計により、最近の泌尿器科対象疾患の種類、頻度、性別、一部の疾患については年令分布、原因疾患等について大筋の把握が可能であると思われる。

結 語

最近の6年間に東大泌尿器科を受診した全症例の疾患統計を行ない、特に診断確定した新患について疾患の種類、頻度、性別、年令分布、原因疾患等について集計し報告した。

本統計の対象期間中、昭和38年1月1日より同年3月31日までの3ヵ月間は、前教室主任 市川篤二名誉教授の在職中の症例であることを附記する。

（昭和45年1月10日受付、特別掲載）